

①天平勝宝七歳乙未二月、相替りて筑紫に遣はさるる諸国の防人等の歌

|            |           |            |
|------------|-----------|------------|
| 遠江国        | 7首        | 18首        |
| 相模国        | 3首        | 8首         |
| 駿河国        | 10首       | 20首        |
| 上総国        | 13首       | 19首        |
| 常陸国        | 10首       | 17首        |
| 下野国        | 11首       | 18首        |
| 下総国        | 11首       | 22首        |
| 信濃国        | 3首        | 12首        |
| <b>上野国</b> | <b>4首</b> | <b>12首</b> |
| 武蔵国        | 12首       | 20首        |
|            |           | 84首 / 166首 |

②昔年防人 … 8首  
合計 92首

|      |           |  |            |
|------|-----------|--|------------|
| 国名判明 | 雑歌<br>5   | 上総 1首<br>下総 1首<br>常陸 2首<br>信濃 1首   | 東海道<br>東山道 |
|      | 相聞歌<br>76 | 遠江 2首<br>駿河 5首<br>伊豆 1首<br>相模 12首<br>武蔵 9首<br>上総 2首<br>下総 4首<br>常陸 10首<br>信濃 4首<br><b>上野 22首</b><br>下野 2首<br>陸奥 3首 | 東海道<br>東山道 |
|      | 譬喩歌<br>90 | 遠江 1首<br>駿河 1首<br>相模 3首<br><b>上野 3首</b><br>陸奥 1首   | 東海道<br>東山道 |
| 国名不明 | 140       | 雑歌 17首<br>相聞歌 112首<br>防人歌 5首<br>譬喩歌 5首<br>挽歌 1首  |            |
|      |           | 合計 230首  |            |

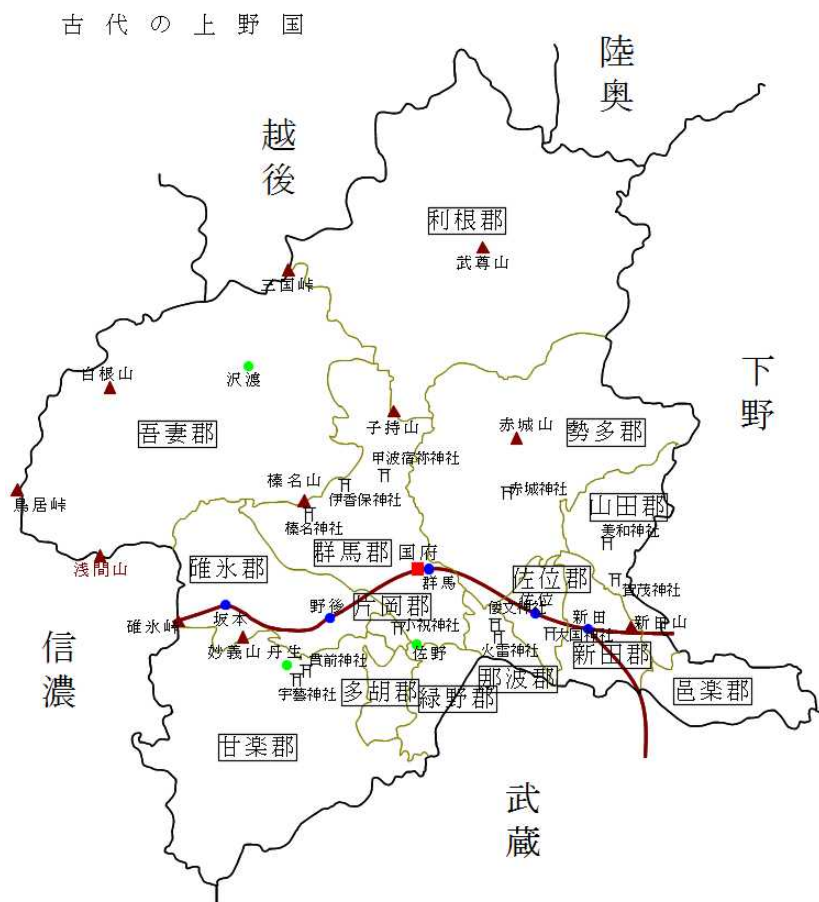
群馬県立女子大学 北川 和 秀

「山の東歌―上野の東歌―」

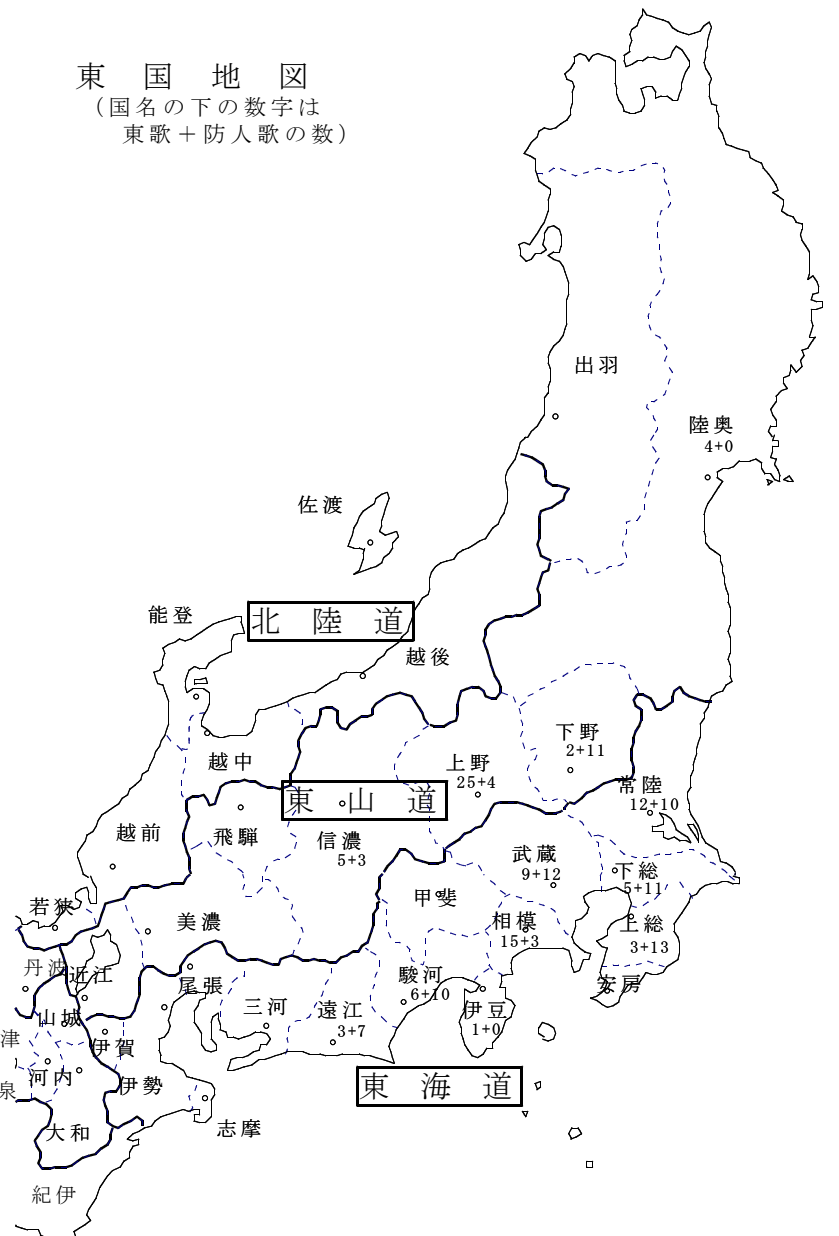
連続講座「古代ぐんまと東国文化」  
万葉集「東歌（あずまうた）」を知る

平成二十四年十二月二十三日  
群馬県立土屋文明記念文学館

東国地図  
(国名の下に数字は東歌+防人歌の数)



※郡界は寛文八年（1668）の上野国郷帳の村名に基づき推定した。



◎上野国東歌（巻一四）

（△は山がよまれた歌。▲はそれに準ずるもの）

一・相聞歌

- △①日の暮に**碓氷**の山を越ゆる日は夫なの袖もさやに振らしつ（三四〇二）
- ▲②吾が恋は現在もかなし草枕**多胡**の入野の将来もかなしも（三四〇三）
- ③**上毛野**安蘇の真麻群かき抱き寝れど飽かぬを何どか吾がせむ（三四〇四）
- ④**上毛野**平度の多杵里が川路にも子らは逢はなも一人のみして（三四〇五）
- ⑤**上毛野**小野の多杵里が安波治にも夫な逢はなも見る人なしに（三四〇五或本歌）
- ⑥**上毛野**佐野の茎立ち折りはやし吾は待たむ多今年来ずとも（三四〇六）
- ⑦**上毛野**真桑島門に朝日さしまぎらはしもなありつつ見れば（三四〇七）
- ⑧**新田山**嶺には着かなな吾によそり間なる子らしあやに愛しも（三四〇八）
- △⑨伊香保ろに天雲い継ぎかぬまづく人とおたはふいざ寝しめとら（三四〇九）
- △⑩伊香保ろの岨の榛原ねもころに将来をなかねそ現在し善かば（三四一〇）
- △⑪**多胡**の嶺に寄綱延へて寄すれどもあにくやしづしその顔よきに（三四一一）
- △⑫**上毛野**久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も（三四一二）
- ⑬**利根**川の川瀬も知らず直渡り波にあふのす逢へる君かも（三四一三）
- △⑭伊香保ろの八尺の井手に立つ虹の頭ろまでもさ寝をさ寝てば（三四一四）
- △⑮**上毛野**伊香保の沼に植ゑ小水葱かく恋ひむとや種求めけむ（三四一五）
- ⑯**上毛野**可保夜が沼のいはる蔓引かばぬれつつ吾をな絶えそね（三四一六）
- ⑰**上毛野**伊奈良の沼の大藺草外に見しよは今こそ勝れ（三四一七）
- ⑱**上毛野**佐野田の苗のむら苗に事は定めつ今はいかにせも（三四一八）
- △⑲伊香保せよ奈可中次下思ひどろ隈こそしつと忘れせなふも（三四一九）
- ⑳**上毛野**佐野の舟橋取り放し親は離くれど吾は離るがへ（三四二〇）
- △㉑伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ（三四二一）
- △㉒伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり（三四二二）
- △㉓**上毛野**伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（三四二三）

二・譬喩歌

- △①**上毛野**阿蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ（三四三四）
- △②伊香保ろの岨の榛原吾が衣に着きよらしもよひたへと思へば（三四三五）
- △③しらとほふ小**新田山**の守る山の末枯れせな常葉にもがも（三四三六）

三・国名不明歌のうち、上野国の歌の可能性あるもの

- △①佐野山に打つや斧音の遠かども寝もとか子ろが面に見えつる（三四七三）
- △②子持山若鷄冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ（三四九四）

- ? ③伊波保ろの岨の若松限りとや君が来まさぬうらもとなくも（三四九五）
- ④左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足掻きを速み言問はず来ぬ（三五四〇）
- ⑤真金吹く丹生の真朱の色に出て言はなくのみそ吾が恋ふらくは（三五六〇）

◎上野国防人歌（巻二〇）

- ①難波道を行きて来までと吾妹子が着つけし紐が緒絶えにけるかも（四四〇四）
- ②吾が妹子がしぬひにせよと着つけし紐系になるとも吾は解かじとよ（四四〇五）
- ③吾が家ろに行かも人も草枕旅は苦しと告げ遣らまくも（四四〇六）
- △④ひな曇り**碓氷**の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも（四四〇七）

◎上野国東歌・防人歌によまれた山の分類

一・境界の山

- ①日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫なの袖もさやに振らしつ（三四〇二）
- ②ひな曇り碓氷の坂を越えしだに妹が恋しく忘らえぬかも（四四〇七）

\*参考

周防にある磐国山を越えむ日は手向よくせよ荒しその道（五六七）  
 畏みと告らずありしをみ越路の手向に立ちて妹が名告りつ（三七三〇）  
 色深く背なが衣は染めましを御坂たばらばま清かに見む（四四二四）

二・気象と関わる山（伊香保＝榛名山） 畏怖・畏敬の対象でもあるか

\*「伊香保」の語源

・現在の「伊香保」は渋川市の町名。旧伊香保町。  
 ・万葉集の時代の「伊香保」は榛名山のこと。  
 ・「いかほ」という語の構成は「いか（巖）＋ほ（穂・秀）」と考えられる。  
 ・「ほ（穂・秀）」は、突き出ているもの、他からぬきんでているもの。例えば、  
 稲穂、槍の穂、波の穂などの「穂」。「炎（ほのほ）」は「火の穂」の意。ろう  
 そくの炎の形は槍の穂とよく似ている。山の名には「高千穂」「穂高」など「ほ」  
 の付くものがある。「いかほ」の「ほ」も同じと考えてよい。



・「いか（厳）」は「内部の力が充実していて、その力が外形に角張って見えている状態」（『古典古語辞典』の「いかづち【雷】」の項）を表す語で、「いかし（厳し）」「いかめし（厳めし）」「いかる（怒る）」「いかづち（雷）」などの「いか」も同じ。

・「いかほ」の「いか（厳）」は、この山のもつどのような性格を「いか（厳）」ととらえたのであろうか。

- ・山の姿
- ・雷の巣窟
- ・火山

- ① 伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ（三四二一）
- ② 伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり（三四二二）

\*参考

韓亭能許の浦波立たぬ日はあれども家に恋ひぬ日はなし（三六七〇）  
荒津の海潮干潮満ち時はあれどいづれの時か我が恋ひざらむ（三八九一）

- ③ 上毛野伊香保の嶺ろに降る雪の行き過ぎかてぬ妹が家のあたり（三四二三）

\*参考

わが屋戸の君松の木に降る雪の行きには行かじ待ちにし待たむ（一〇四一）

- ④ 伊香保ろの八尺の井手に立つ虹の躰ろまでもさ寝をさ寝てば（三四一四）

\*参考

泊瀬川ながるる水脈の瀬を早み井堤越す波の音の清けく（一一〇八）  
虹にじ〇東国の小児のじと云。（『物類称呼』巻一「天地」）安永四年1775  
のじ 虹（『群馬県邑楽郡誌』前編附録「二、方言」）大正六年1917

- ⑤ 伊香保ろに天雲い継ぎかぬまづく人とおたはふいざ寝しめとら（三四〇九）

### 三・身近にある親しい山

- ① 吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも（三四〇三）

\*参考

伊香保ろの岨の榛原ねもころに将来をなかねそ現在し良かば（三四一〇）

昭和三十年まで存在した入野村は、明治二十二年の町村合併の折、小串・黒熊・深沢・石神・中島・小暮・馬庭・岩井・多比良の九ヶ村が合併して成立。村名は、東歌の「多胡の入野」が黒熊附近に比定されるという説を採用して命名された。

- ② 多胡の嶺に寄綱延へて寄すれどもあにくやしづしその顔よきに（三四一一）

- ③ 新田山嶺には着かなな吾によそり間なる子らしあやに愛しも（三四〇八）

- ④ しらとほふ小新田山の守る山の末枯れせな常葉にもがも（三四三六）

- ⑤ 上毛野久路保の嶺ろの葛葉がた愛しけ子らにいや離り来も（三四一二）

- ⑥ 上毛野阿蘇山葛野を広み延ひにしものをあぜか絶えせむ（三四三四）

- ⑦ 子持山若鶏冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ（三四九四）



『日本言語地図』  
259「虹」から

群馬県内の△の地点は  
桐生市梅田5丁目  
昭和38年の調査  
当時60歳以上の人

- NIZI
- △ NOZI
- △ NOOZI